

きょうも おもてなし 日和

川崎美紀の
SMILE通信



オリンピックイヤーが始まりました。東京 2020 に関するニュースが多くなり、いよいよやって来るという気になってきました。

その瞬間に輝く人や場所があり、後々まで残っていく記憶や記録があります。いわゆる「レジェンド」(伝説や遺産)としての第一歩を踏み出した場所があります。

**うよきよせつ
紆余曲折を経て完成!
大切に、永く使うために**

昨年末、ついに新国立競技場が完成したというニュースを目にしたとき、さすが日本、開会までにはなん

だかんだ言っても間に合わせることができ、さすがだと思いました。

過去の開催地のギリギリの様子、間に合うのかやきもきさせたり、競技が始まってもまだ工事が続いたり、見られるとまずいものには目隠しして見えなくしたり……というような誤魔化しはしないところは誇れるところです。

国立競技場の建て替えには紆余曲折あって、一筋縄ではいかなかったことはみなさんご存知のとおりです。そして想像を絶するコストがかかっています。

大切に、永く、多くの人が喜んで使うには品質管理、メンテナンスは

て、昼夜問わず多くのランナーが走っています。

この外苑前のランニングコースは、新国立競技場とは道路を挟んですぐお隣です。競技場は長い間フェンスに囲われていました。フェンス越しに徐々にできあがっていく様子を感じながらの練習は、この場所ならではの独特の雰囲気があって、刺激的です。私のような市民ランナーもその気にさせる空間です。

夜走っていると、工事関係者の方々とすれ違うことがありました。ヘルメットやジャケット、靴の反射テープがライトに照らされて浮かび上がります。その足取りは重量感がありますが軽く、しっかりとできて、この人たちが新国立をつくっているんだと思うと心強く感じました。



イラスト★ささきさとみ (http://blog.goo.ne.jp/satomi343)

Vol.32 新たな国立競技場への思い

欠かせません。こここそみなさんの出番です。さらに、日本に暮らす私たちが元来持ち合わせている、さりげなく後片付けをする「後を濁さず」の精神も引き継いでいきたいです。

忘れられない 旧国立競技場での体験

私は、6年前の2014年に行われたマラソン大会で、初めて旧国立競技場のトラックを走りました。

「さよなら国立」として、取り壊し前のトラックの最後のイベントに参加したのです。さよならですが、私にとっては初国立で、ドキドキしながらゴールする前の1周を走りました。

走り終わってみると、ここがあの国立競技場なんだと感慨深くなりま

した。改めて見回すとトラックと観客席が予想以上に近くて、見やすい競技場であることがわかりました。

ですが、トイレや控え室、柱や階段などの設備の状態はとても古く、ヒビが入っていたり、水はけが悪いところがあったりと、経年劣化状態であることは明らかでした。長い間、多くの選手に愛された競技場ですが、もう限界だったのだと、改めて知りました。

さらに遡ってその3年前、2011年には、東日本大震災発生時はサブトラックで練習し終えた直後で、帰ろうと最寄りの千駄ヶ谷駅に向かう途中で駅前の交差点にいました。

いままでに聞いたことのない地鳴りとその後の激しい揺れに呆然(ぼうぜん)となり、いままでいた場所

に戻るべきかと迷い、振り返るとロッカールームのあった東京体育館の窓ガラスが大きく歪んで斜めに伸びて揺れていました。

その恐ろしい様子に、その場から動けなくなってしまった記憶も残っています。その体育館も数年前にすでに建て替わりました。

この場所は、私にとっても折に触れて立ち寄っている、さまざまな思いのある場所です。

そしていまは、ランニングクラブの定期練習で外苑前の周回コースを走っています。コースの路面には100メートルごとに目印となるブロックが埋め込まれていて、距離の表示がわかりやすいのが特徴です。瀬古利彦さんがよく練習していたので、通称瀬古ロードとも言われてい

大イベントを控えた新施設、 どう盛り立てていけるか

そして、建て替えられた新国立です。

日本各地の木材を使っていたり、屋根の中心が開いていたり特徴はたくさんありますが、私がへえーと思ったところは観客席です。

シートの色が目を引きまます。客席の色とりどりの椅子は「こもれび/木漏れ日」を表しているということですが、一方では空席が目立たないようにする工夫とも言われています。

確かに、一部空いている屋根から空撮された映像を見たときに、あれっ、誰か座っているの?と思いま

した。よくみると、グリーン・白・茶色と、椅子の色が何色かあって、しかもその色々はランダムな配置です。

まるで観客が座っているかのように見える、不思議な感じがしました。この感じは意図したものなのか、「こもれび」の偶然の産物なのかかわかりませんが、目の錯覚、感覚の曖昧さを利用した工夫なのですね、驚きました。

初めての試みのシートは、清掃のときに、人がいるのかいないのか判断に迷うことにならないといいですね。実際はどんな感じなのか、大変興味があります。

* * *
華やかで大きなイベントがあると

必ずその裏には、清掃や警備などビルメンの活躍があります。

表立って目立つことは少ないけれど、選手たちと接する機会も多く、「おもてなし」の最前線なんだと思います。さりげない笑顔や親切な対応が、実は記録以上に大きな成果に結びつくのだと信じています。

昨年秋のラグビーのワールドカップでも、さまざまなドラマを演出したのは、観客や試合を支えたスタッフでした。

新しい国立競技場を目の当たりにして思うのは、ビルメンのスタッフがどのようにこの場所を、そして東京2020を盛り立てていけるか、です。そう考えるとすでにいまから、ワクワク、ドキドキ、です。



川崎 美紀 (かわさき・みき) オフィスリバー研修講師 <http://www.officeriver.biz>
国際線キャビンアテンダントとして10年乗務、2005年JALアカデミーのインストラクターとなる。同時に個人事務所・オフィスリバーを立ち上げ、2012年独立。2015年日本キャリア開発協会認定キャリアディベロップメントアドバイザー(CDA)の資格を取得。主に企業を対象に、ニーズに応じた研修を提案し提供。近年はビルメンテナンス・警備・ホテル・金融機関など各業界での研修実績を持つ。ビルクリーニングカレッジでは「おもてなしマナー」トレーナー講習を担当。